

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

大阪市立鶴見南小

学校

児童数

111

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.44	19.69	28.02	34.17	46.57	9.86	150.72	18.06	47.52
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	14.72	18.68	34.02	32.72	38.38	10.36	143.13	11.87	49.80
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

筋パワー・筋持久力について、男女とも全国・大阪市平均を上回っている。また、跳躍能力についても男女とも全国・大阪市平均を同等もしくは上回っている。女子においては、全身持久力についても全国・大阪市平均を上回っている。筋力、柔軟性、敏捷性、巧緻性・投球能力について、男女とも全国・大阪市平均を下回っている。特に、柔軟性、敏捷性については、全国平均を大きく下回っている。体力合計点について、男女とも全国平均を大きく下回っている。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の回答について、肯定的な回答の割合は全国・大阪市平均を上回っている。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合について、男女とも全国・大阪市の割合を下回っている曜日が多い。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

全体として、運動時間が短い傾向にあり、体力・運動能力が低い傾向にある。しかし、運動に対する意欲は男女ともに高い。

これまで、意欲の喚起と運動の場の保障のために、持久走や縄跳びを集中的に行う期間を設け、児童の体力向上を図ってきた。そうした取り組みの結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の中で活動自粛を余儀なくされていた影響からは、一定の回復状況にあるが、以前体力・運動能力の向上は喫緊の課題である。

今後は、教科担任制における体育科での体力・運動能力向上に向けた指導において継続的に取り組みを進める。また、課外の時間も含めた運動機会の保障を実施し、運動場に恒久的にキャッチボールゾーンを設定したり、持久走の期間を延長したりするなど、さらに体力・運動能力の向上を図っていく。また、運動への意欲喚起を学校行事などで積極的に働きかけ、児童の自主的な運動がなされるよう指導をしていく。